

第16回冷凍技士研修会 「空調機への先端技術」

主 催：(社)日本冷凍空調学会 冷凍技士運営委員会
日 時：平成20年3月4日（火）14:00～16:30
場 所：三菱電機(株)住環境研究開発センター（神奈川県鎌倉市大船5-1-1）

建築構造の多様化・様々な住環境に対応した、健康的で快適な住空間を形成するために、空調機の信頼性、安全性、制御性、さらに省エネ性などが求められています。そこで今回は三菱電機(株)住環境研究開発センターを訪問し、空調機の最新伝送制御技術（BEMS、予防保全・省エネ診断など）とメカニカル制御診断技術（高調波対策、冷媒漏検知、振動対策など）を研修したいと思います。

ぜひ設計企画、施工、運営・維持監理などを担当されている方、興味をお持ちの方はふるってご参加下さい。

1 住環境研究開発センターの紹介	14:00～14:20
2 伝送制御技術	14:20～15:00
3 メカニカル制御診断技術	15:00～15:40
4 研修センター見学	15:40～16:20
5 質疑応答	16:20～16:30

募集人数： 20名（冷凍空調技士、食品冷凍技士の有資格者）定員になり次第締め切ります。

参 加 費： 無 料（代理出席不可）

集合時間： 14:00（時間厳守）

CPDポイント 3.8

集合場所： 三菱電機(株)住環境研究開発センター

解散場所： 現地解散

申込方法： 下記申込書に必要事項ご記入の上、学会へFAXまたは郵送でお申し込み下さい。
参加券・集合場所の地図をお送りします。

申込先： 〒160-0008 東京都新宿区三栄町8番地 三栄ビル

(社)日本冷凍空調学会 冷凍技士研修会係

TEL 03-3359-5231 FAX 03-3359-5233

切 取 線

NO. 「空調機への先端技術」 冷凍技士研修会 申込書

氏 名	技士登録 NO.() ★継続教育(CPD)ご登録者は番号をご記入願います NO.()	
会社名		
住 所		
TEL	()	☆FAX ()

第16回冷凍技士研修会

空調機への先端技術

植村 学 * Manabu UEMURA

1. はじめに

建築構造の多様化、様々な住環境に対応した、健康的で快適な住空間を形成するために、空調機の信頼性、安全性、さらに省エネ性などが求められている。そこで今回は、三菱電機(株)住環境研究開発センター(図1)を訪問し、空調機の技術を研修した。

2. 研修スケジュール

- 1) 住環境研究開発センターの紹介
- 2) 伝送制御技術
- 3) メカニカル制御診断技術
- 4) 研修センター見学
- 5) 質疑応答



図1 三菱電機(株) (JR 大船駅から徒歩7分)

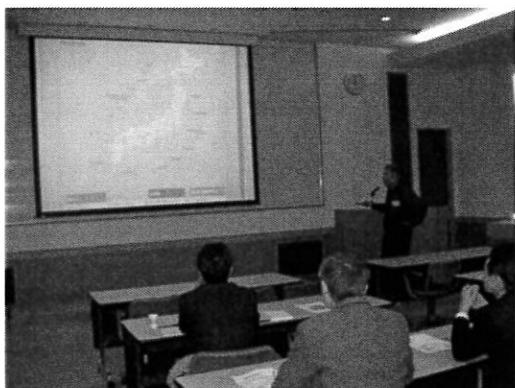


図2 研修会場

3. 研修概要

住環境研究開発センターの紹介では、最先端の研究テーマと商品化を環境問題も交えて説明があった(図2)。

伝送制御技術では、設備用ネットワークの省配線化を実現する技術を研修した。予防保全や省エネ診断技術が紹介された。

メカニカル制御診断技術では、スクロールとスクリュー圧縮機の高調波による故障診断、冷媒漏検知と振動対策について事例紹介がされた。

研修センター見学では、カーナビの音声認識(図3)やデザインセンター(図4、5)、無響室を見学した。



図3 カーナビの音声認識を説明



図4 電車出入口上の案内ディスプレー



図5 「上質」と「気持ちよさ」を追求

4. おわりに

今回の研修は、空調機伝送制御技術、圧縮機の故障診断や冷媒の漏れ検知など、多くのテーマを研修することができた。今後の商品開発やサービスに本技術が採用されて、肌理細やかな制御や省エネ、省資源が実現されていくことが期待される。質疑応答では真剣な質疑が多く有り、より一層理解が深まったものと思われる。

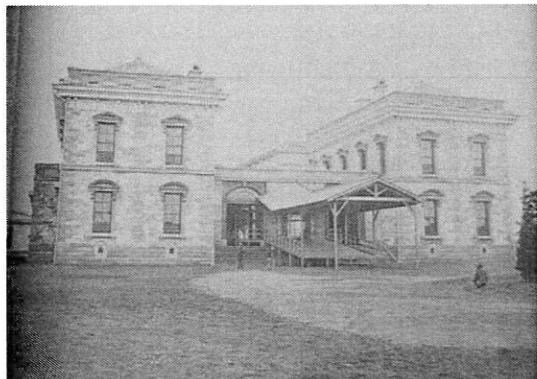
今回の研修に会場提供と研修、見学を受け入れていただいた三菱電機(株)住環境研究開発センターの各位に厚くお礼申し上げます。

■石碑・記念碑めぐり(86)■

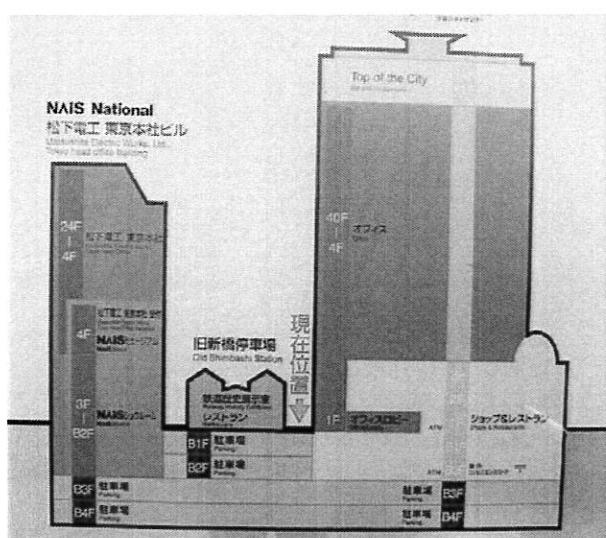
「旧新橋停車場」の復元建築

この建物は、明治5(1872)年に開業した日本最初の鉄道ターミナル「新橋停車場」の外観を当時と同じ位置に、できるだけ忠実に再現したものである。この駅舎は、アメリカ人R.P.プリジェンスの設計により明治4(1871)年5月に着工、同年12月に完成し、西洋建築がまだ珍しかった時代の東京で、鉄道開業直後に西洋風に整備された銀座通りに向かって偉容を誇っていた。大正3(1911)年に新設の東京駅に旅客ターミナル機能が移り、それまでの鳥森駅が新橋の名を引き継いで現在の新橋駅となり、貨物専用駅となった旧駅は汐留駅と改称、物流の拠点として戦前・戦後を通して東京の経済活動を支えてきた。しかし、この駅舎は大正12年の関東大震災で火災のため焼失した。昭和61(1986)年に汐留駅はその使命を終え廃止された。跡地は再開発のため発掘調査され、駅舎礎石などが発見された。その後、わが国鉄道発祥の往時を偲ぶため駅舎を再建することになったのである。

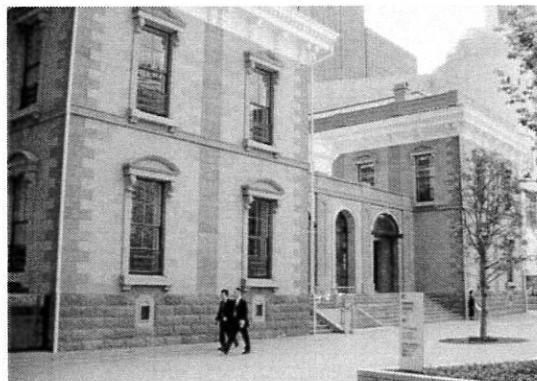
(桑野貢三)



最初の駅舎



現在の建設状況



復元された建物